

2017年11月
1133号

百葉

Manyoh

一冊の会 編集部

〒160-0015 東京都新宿区大京町5
(一冊の会研究室)

53年目も全力で！

～櫻華塾53期第1回～

一冊の会が始まったのは1965年10月27日。今年の10月27日で丸52年が経ち、53年目に入って初めての櫻華塾を憲政記念館の尾崎記念財団応接室にて、11月12日に開催いたしました。一冊の会では50年を1つの節目として考え、50年目までを第1章51年目からを第2章と考えております。心新たに第2章53期第1回櫻華塾として開催いたしました。

『1946.4.10～初の婦人参政権行使と日本女性自立への出発』のデータ入力をして 上ノ町さん

通称「ブルーの本」の入力作業を進めている上ノ町さんからは、当時のアンケートの入力をする中で見えてくる当時の様子や感じたことの発表がありました。

投票前日の新聞記事には「婦人の関心は低く3割もいけば十分だろう」と書かれていたそうですが、なんと66.97%と女性の投票率は当初予想されていたよりも高く、当時と比べると現在は色々な情報を得る手段もあるのに権利を軽んじている風潮があるのではないかと問題提起をされました。



桜とハナミズキの会に参加して 箱根さん（常任参事）

尾崎行雄・桜とハナミズキの集い～「友好の絆」未来に向けて～が憲政記念館にて10月21日に開催され、一冊の会として6人が参加した様子の報告がありました。罌堂香風の土井孝子理事長が「罌堂香風の歩み一国際交流と世界平和に向けて」と題して講演。2016年度の全米さくらの女王、レイチェル・ボーンさん、第七代花みずきの女王伊藤小百合さんが揃って参加。また、日本に返礼で贈られたハナミズキを大切に育てている東京都立園芸高等学校の宗村氏から文献を通して説明がありました。尾崎行雄が桜を贈った逸話に比べると返礼にハナミズキを頂いたことは世間にそれ程知られてはおりませんが、100年以上経った今も日米の友好を育てております。“継続は力なり”コツコツと私たちも負けないよう力をつけていきましょう。※後日大槻会長が土井さんの講演と一冊の会櫻華塾で勉強した結果を、表にまとめ配布して下さいました。この表は、日本の歴史を知るうえにも最も大切なものであり、貴重な資料です。しっかり学んでいきたいと思っております。

FAWA（アジア太平洋国際女性連盟）について 三坂 FAWA 事務局長

来年フィリピンにて開催される FAWA 国際会議の案内がオルテガ会長からありました。期間は、2018年9月26日～30日。真の友好の必要性を今こそ強く感じ、相馬雪香先生の想いに応えて女性の連帯を強め、1人でも2人でも多く参加して友好の輪を築きましようと呼びかけました。

53年目も全力で！ 大槻会長

今日の櫻華塾は前回と大きく違います！なぜなら53年目だからです。新たな一步を踏み出しました。かつて櫻華塾は全員発言でした。今はこのように大勢で一堂に会するので、1人1人の発言の機会は減っています。研究生として立候補した人には、一冊の会で自分が学んだことを発表できるよう修練して欲しい。

先日アメリカ・トランプ大統領の長女、イヴァンカ大統領補佐官が「国際女性会議 WAW!」に出席し、講演を行いました。WAW! ~World Assembly for Women~については本日配布した万葉1132号を見てください。

国会で憲法改正が叫ばれていますが、我々は14条と24条に注目し、ベアテ・シロタ・ゴードンさんが入るべきだと主張したことを忘れてはなりません。今、UN Womenでも男女は半々にするべきだと言われています。女性のことであっても男性が入って考えていかなければなりません。今現在の日本の国全体の状況は、男性が圧倒的に多く、クォータ制の成立が望まれます。私たち一冊の会は、何事も議論するだけでなく理解して動いてきました。それを続けていかななくてはなりません。

今年も相馬雪香先生が没した11月8日には、お墓参り（青山）をしました。尾崎行雄先生のお墓は、円覚寺です。

東日本大震災支援は118回となり、昨年は11月5日の世界津波の日に合わせてメッセージ活動も行ない、先日は「被爆牛と生きる」の鑑賞をいたしました。10月27日～11月9日は読書週間ですから識字から始まった一冊の会としては大切にしております。鉛筆をさいたま市の富永Gが集めて下さいました。寄付して下さいました会員の方に感謝しましょう。本当に、たくさんの草の根の活動をしてきましたが、ここに集った皆さまと共に一冊の会第2章として継続実行あるのみですネ。

53年目に入って 石田理事長

一冊の会の歴史はただ単に続いたものではありません。いかに重いか。長ければよいというものではなく、常に見直してきました。

『1946. 4. 10～初の婦人参政権行使と日本女性自立への^{たびだち}出発』の証言集も、70年前の事を今に伝えていきます。投票とは何か。我々の生命・自由をどう守るか、幸福とは何か。それを決めていくことができるのが選挙です。

桜とハナミズキについても、人と人の関係がそうであるように、国と国との関係も感謝しあうことが大切です。お互いの想いを100年続けている。一冊の会も、使命は何か考え、先人の想いを未来につないでいきましょう。大槻会長に拍手！

本日の櫻華塾では様々な発表がありました。時流に合わせた活動の積み重ねの実績こそが、私たちの力になっています。

一冊の会はイソップ物語やかぐや姫を子どもに読み聞かせ、そこから学んだ感動を近所の人々に分かち合ったことから始まり、次第に輪が大きくなりました。そして、「私が読んで楽しかった本、あなたにも読んで欲しい本」のキャッチフレーズをかかげ、僻地の分校への献本活動を始めました。自分が楽しかった経験を広めていこうという思いは、キャッチフレーズ「見てこよう！聞いてみよう！語り合おうよ！友好の輪10人の友人づくり」につながります。様々な活動は全て、この思いから始まっており、横のつながり、草の根活動が根本にあることを、今回改めて感じました。

53年目も皆さまと共に全力で活動いたしましょう！

☆さあ！皆さん。一冊の会は国連ウイメン日本協会の母体です。女性・女児に対する暴力撤廃のための募金活動に、協力し、支援して参りましょう。

文責：赤田

